

我々は金融機関をどのように選別すればよいか

横浜市立大学 松浦克己

神戸大学 竹澤康子

北拓、日長銀、日債銀の大手銀行、さらに阪和、京都共栄銀行などの地方金融機関の破綻が相次いでいる。もちろんこれらは当該金融機関のずさんな経営が招いたものである。他方で 2001 年のペイオフを控え、預金者や借り手は慎重な金融機関の選択を迫られている。いうまでもなく、健全な金融機関を選択し不良な金融機関を回避することは、自己の財産を守るだけでなく、健全な金融機関との取引関係にあることが自己の企業が優良であるという第三者に対するシグナルともなるからである。

しかしながら、外部から金融機関の健全性を把握することは必ずしも容易ではない。その理由の一端は銀行のディスクロズの不足、あるいは決算情報の粉飾にある。銀行情報の問題があるにせよ、我々は決算等に基づいて判断せざるを得ない。我々はバブル期から近年の情報をを用い、パネル分析で金融機関の経営効率の優劣の判断を試みる。それにより人々が利用可能な公開情報で、金融機関の選択を、預金者や企業がどのように行えばよいのかの検証を試みる。